

平成 27 年 3 月 21 日

県立横浜翠嵐高等学校

平成 26 年 度 学 校 評 価 実 施 報 告 書 (定 時 制)

学校目標	取組の内容		校内評価	
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等
<p>〈教育課程〉</p> <p>(1) 三修制を可能とする教育課程の研究。</p> <p>(2) 多様な生徒に対応できる教育課程の検討と改善。</p>	<p>(1) 3年間で卒業を希望する生徒のために、教育課程の研究改善に取り組むと共に学校外での学修による単位認定制度の拡充を図る。</p> <p>(2) 学校設定科目の見直しを図り、より生徒のニーズにあった多様な選択が可能になるよう工夫する。</p>	<p>(1) 三修制を希望する生徒の卒業率を上げることができたか。(卒業生数の推移)</p> <p>(2) 自由選択科目・学校設定科目のありかたの見直しができたか。(担当者による評価)</p>	<p>(1) 今年度の卒業生 90 名のうち、64 名が 3 修制を活用して卒業した。昨年度に比べ 10 名の増加となった。</p> <p>(2) 今年度の日課変更により、自由選択科目の履修によって修得できる最大単位数が減少したことに伴い集中講座の形態で実施する科目を二つ開講した。いずれも受講者は積極的に学習活動に取り組んでいた。また、一部の自由選択科目の内容、名称の見直しを行なった。</p>	<p>(1) 学校外の学修による単位認定制度の活用も勧めながら、3年間で卒業を希望する生徒の希望がかなうよう、支援を進める。</p> <p>(2) 引き続き、生徒の学習意欲を引き出すことができるよう。自由選択科目として設置している学校設定科目の内容等を検証し、必要に応じ改善をはかる。</p>
<p>〈生徒指導・支援〉</p> <p>(1) さまざまな課題を抱える生徒の理解をした上で、生徒指導體制の確立を図る。</p> <p>(2) 自主的活動を促進する生徒支援の視点に立った学校づくりを推進する。</p>	<p>(1) ①生徒個々に適切な支援が行えるよう職員全体で情報を共有し、組織的な生徒支援体制、教育相談体制の確立を図る。</p> <p>②多文化教育コーディネーターと連携し、日本語を母語としない生徒支援体制を確立する。</p> <p>③本校の「学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止に努め、生徒間の円滑な人間関係の構築に向け支援する。</p> <p>(2) ①学校行事や部活動等に生徒が主体的・積極的に取り組めるよう、生徒の活動を支援することにより、自己肯定感や自己有用感を高められるよう支援する。</p> <p>②外国につながる生徒との共生・共働等を通じた多文化教育を推進し、グローバルな人材の育成を図る。</p>	<p>(1) ①職員全体で生徒の状況を把握し、組織的な支援ができたか。(担当者による評価)</p> <p>②日本語を母語としない生徒に対して学習等の支援ができたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート)</p> <p>③速やかな情報収集と早期対応ができたか。いじめを未然に防げたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート)</p> <p>(2) ①生徒の学校行事や部活動等に対する自主性・主体性を高めることができたか(担当者による評価)</p> <p>②異なる文化を持つ生徒相互の交流を通じ、多文化について理解を深めることができたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート)</p>	<p>(1) ①職員全体で組織的に生徒の情報の共有が現在のところできている。</p> <p>②日本語を母語としない生徒に対し、今年度新たに科目「保健」について生徒が、積極的に授業参加できるよう学習支援ができています。その他の科目についても、支援ができています。</p> <p>③「いじめ・暴力防止週間」において生徒対象アンケートやいじめ問題検討委員会を定期的に行なった。学年内等職員間の連携を図り、速やかな情報収集と早期対応をほぼ図ることができた。</p> <p>(2) ①新入生生徒会オリエンテーションや文化祭、球技大会において生徒会執行部、実行委員会が活発に活動し生徒の自主性・主体性を高めることができた。</p> <p>②文化祭時、多文化教育の一環として多文化研究会が生徒の食文化を披露し、多くの生徒・保護者・地域の方に対し、理解を深めることができた。韓国朝鮮語履修者による朝鮮学校との交流をすることができた。</p>	<p>(1) ①個々の生徒が抱える課題が多様化・深刻化しており、組織的な生徒支援体制を図っているが課題解決に至らないこともある。本人だけでなく保護者や外部機関とも連携し、取り組みの推進を図る必要がある。</p> <p>②日本語を母語としない生徒の取り出し授業を限られた科目のみ行っており、他の科目では、上手く授業の成果を上げられないものもあり、今後の課題である。</p> <p>③今後についても、生徒間の円滑な人間関係の構築を目指し、職員全体で生徒相談をはじめ、今後もきめ細かな指導を継続していく必要がある。</p> <p>(2) ①自主性・主体性を発揮できる生徒は限られており、学校行事や部活動において、多くの生徒が自主性・主体性を高められるよう生徒の活動を学校全体として支援していく必要がある。</p> <p>②今後も文化祭時だけでなく、多文化交流できる機会を多く設定し、生徒相互の交流や理解を推進することにより、グローバルな人材育成を図る。</p>

<p>〈学習指導・授業改善〉</p> <p>(1) 基礎学力の定着を通じ生徒の学習意欲向上をめざす。</p> <p>(2) 授業の研究・改善に取り組む。</p>	<p>(1) ①基礎基本的な学力の定着を図るとともに、「思考力」「判断力」「表現力」を育成するための工夫を行う。</p> <p>②進学希望者に対して夏季集中講座や補習等、進路実現に向けた取り組みを充実させる。</p> <p>(2) 生徒による授業評価の結果を踏まえ、生徒が主体的に参加できる授業づくりに向け、組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>(1) ①生徒の「思考力」「判断力」「表現力」を伸ばす授業ができたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート)</p> <p>②進学希望者の合格率を上げることができたか。(進学率の推移)</p> <p>(2) 組織的な授業改善ができたか。生徒の授業に対する満足度を高めることができたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート)</p>	<p>(1) 生徒の「思考力」「判断力」「表現力」を伸ばすことを意識した授業改善に取り組まれるようになってきているが、これらの力が定着したかどうか、現行の生徒による授業評価の中では明確に把握しにくい面があるので、この点について工夫したい。また、今年度の卒業生の進学実績では、大学への進学者が昨年度より増加した。</p> <p>(2) 各教科で取り組んだ授業改善の成果や課題について、全体で確認し共有することが十分ではなかった。来年度以降の課題としたい。</p>	<p>(1) 引き続き、生徒の「思考力」「判断力」「表現力」を伸ばすことを意識して授業改善に取り組む。またこれらの力が定着しつつあるかどうかを検証できる手立てについて工夫する。また、進学希望者の合格率を上げられるよう取り組む。</p> <p>(2) 引き続き、組織的な授業改善に取り組むとともに、取り組みの中で明らかにできた成果や課題について、全体で共有できるようつとめる。</p>
<p>〈キャリア教育〉</p> <p>さまざまな環境にある生徒を全体で支援する体制を築き、生徒の希望や能力に即した進路の指導の推進を図る。</p>	<p>(1) 進路指導室の設備充実と、生徒の一人ひとりに応じた進路指導の推進を図る。</p> <p>(2) 総合的な学習の時間を基軸としたキャリア教育全体（シチズンシップ教育を含む）の充実を図る。</p> <p>(3) 校外の就業体験学習（インターシップ）や会社見学、上級学校見学を積極的に導入し、勤労観、職業観の育成に努める。</p>	<p>(1) 進路指導室の環境整備を行い、生徒の活用率を上げることができたか。(担当者による評価)</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの勤労観・職業観の育成が図られ、進路決定者の割合が増加したか。(進学率の推移、生徒対象アンケート)</p> <p>(3) 外部機関による説明会・講習会の実施や就業体験学習（インターシップ）を効果的に実施できたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート)</p>	<p>(1) 進路指導室を就職、公務員、大学、短期大学、専門学校等分野別に配置し、生徒が閲覧しやすい環境を整えた。</p> <p>(2) 大学、短期大学、専門学校の進学者は26.6%と昨年度と比較してほぼ横ばいであったが、就職について、17.9%から23.3%と増加した。</p> <p>(3) 生徒が自分の適性にあった進路選択ができるよう、4月に3、4年生対象分野別説明会、6月に3、4年生対象横浜サポートステーションによるガイダンス、6月に2学年対象分野別説明会、12月に1学年対象分野別説明会、また7月から8月にかけて希望者によるインターンシップ、11月に1学年対象の工場見学、2学年対象の上級学校見学、12月に1学年対象進路別説明会、1月に全学年対象卒業生講演会を実施した。</p>	<p>(1) 今後とも進路指導室を整備し、生徒が閲覧しやすい環境を整えていく。</p> <p>(2) 就職準備者が昨年度と比較して24.4%から7.8%と減少したのに対し進学準備者が9.0%から15.6%と増加した。今後、進学希望者の生徒が増加する傾向にあり、就職指導のみならず、進学指導においてもより充実させる必要がある。</p> <p>(3) 今後とも外部機関による説明会や就業体験学習をさらに充実させ、生徒一人ひとりにあった進路選択と望ましい勤労観、職業観を育成していく。</p>

<p>〈地域等連携〉</p> <p>(1) 地域・保護者と連携し、生徒が安全安心し学習に取り組むことができる環境作りを推進する。</p> <p>(2) 地域や保護者等の支援を活用した教育活動展開を検討する。</p>	<p>(1) ①ホームページやメール配信システムを利用し迅速に情報提供を行う。 ②保護者・地域の町内会・警察等と連携し、事故・不祥事の防止に向けた取組を全校的に行う。</p> <p>(2) 保護者や地域に対し、本校の取り組みや教育活動についてホームページや学校へ行こう週間等を利用して積極的に外部発信し、理解と協力を求めている。</p> <p>(3) 保護者や地域の教育力を生かし、長期休業中の集中講座や文化祭での料理教室を実施する。</p> <p>(4) 創立 100 周年記念事業、定時制創立 50 周年記念事業を成功させることにより保護者、同窓生、地域の方々に本校への支援をいただく。</p> <p>(5) 中国語入門、韓国・朝鮮語入門等の科目を中心に積極的に社会人聴講生を受け入れる。</p>	<p>(1) ①ホームページの更新がスムーズにできたか。(担当者による評価) ②保護者・地域・警察等と連携がとれたか。(担当者による評価)</p> <p>(2) 地域の方や保護者の方との協働による教育活動ができたか。(担当者による評価、学校評議員・保護者による評価)</p> <p>(3) 料理教室や集中講座で保護者等と連携が取れたか。(担当者による評価)</p> <p>(4) 保護者や同窓生と協力し 50 周年行事を成功させることができたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート)</p>	<p>(1) ①毎月の行事予定等をホームページにアップする等、学校の教育活動が常に保護者をはじめ、外部に見えるよう工夫をした。 ②課題や問題のある生徒の適切な対応を行うため、保護者との情報共有を密に行った。また警察や施設等の外部機関と積極的に連携を取り、効果的な支援を行った。</p> <p>(2) ・球技大会の際、振興会役員をはじめ、保護者の方主催で生徒に豚汁を作り、ご馳走する等、行事を通じて共育の場を設定することができた。 ・9月に実施された防災訓練では、近隣の方の協力を得ながら行い、最後は体育館でご講評をいただいた。</p> <p>(3) 文化祭での多文化共生による各国の郷土料理販売において、保護者にも協力を得て行うことができた。</p> <p>(4) 12月に開催された50周年記念式典において、卒業生数名をお招きし、講演を行ってもらった等、協働により素晴らしい式典を行うことができた。</p>	
<p>〈学校運営・学校管理〉</p> <p>(1) 地域・保護者に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>(2) 生徒の防災意識を高め、安全対策強化につとめる。</p>	<p>(1) ①生徒指導や教育相談、事故・不祥事の防止に係る研修を設け、職員全体で信頼される学校づくりを推進する。 ②成績処理、調査書作成、県費・私費の会計処理等について点検体制を見直し、さらなる事故防止に努める。</p> <p>(2) 防災教育を推進するとともに、防災マニュアルについて必要な改善をおこなう。</p>	<p>(1) 点検体制を強化し、事故・不祥事ゼロを実現できたか。(担当者による評価) 生徒に対する防災教育を実施できたか。生徒の防災意識を高める様な取り組みができたか。防災マニュアルの改善が図れたか。(担当者による評価)</p>	<p>(1) 成績処理や証明書等の発行における確実な点検を心がけ、大きな事故やミスを防止することができた。 夜間、授業中に被災することを想定した防災避難訓練を実施することなどにより、生徒が防災意識を持つことができたよう取り組んだ。</p>	<p>(1) 引き続き、成績処理や証明書類の発行に際しての点検を確実にを行うように努め、ミスや事故のないようにする。緊張感を持って防災避難訓練に取り組むよう心がけ、生徒の防災意識を高めることができるように努める。また、防災マニュアルについても、改善すべき点がないか、検証をするようにする。</p>

教育目標・教育方針・中長期的な方針など

- 1 人格を重んじ個性の伸長をはかる。
- 2 円満な人格を育成し協調の精神を養う。
- 3 日本国民としての自覚を喚起し進んで国際親善の精神を養う
- 4 公共の福祉と人類の幸福とに貢献する素地を作り上げる。
- 5 真理と正義を愛し民主的文化国家建設の基盤を築く
- 6 学問芸術に対する情熱を喚起しその充実をはかる。
- 7 意志強固で実行力に富む人物をつくる
- 8 健康に留意し心身の調和的発達をはかる
- 9 勤労と責任を重んじ自主・自律の習慣を身につける
- 10 明朗闊達で気品のある風格と豊かな情操を養う。